

ふるさとの
文化財探訪

文化財調査のアンテナ

文化財調査員 梅木恵美

「文化財」とは、人間の文化によって残された有形・無形のもののうち、価値（文化的価値）を広く認められたものの総称を指す
(Wikipediaより)

縁あって、今年度から文化財調査員の仲間入りをさせて頂きました。お引き受けしたものの、恥ずかしながら、九重町で生まれ育ったのに町内の文化財については無知ですし、はて、文化財とはなんぞや？という状態でした。わからないことはインターネットで検索すれば膨大な情報が入ってきます。そこで調べたWikipediaに、冒頭の解説がありました。

九重町には40件の文化財があります。私の生まれ育った地域（松木）にも、多くの文化財があります。竜門の滝や瑞巖寺磨崖仏、大好きな宝八幡宮にも多くの文化財があり、幼い頃から毎年心待ちにしていた秋祭りの宝楽や下旦祇園なども無形民俗文化財です。

私は建築に携わる仕事をしていますが、九重町には建築物としての文化財は多くはありません。

そして現在ほとんどの建築物が、古くなると取り壊して建て替える「スクラップアンドビルド」とい

る状態です。これは、西洋とは違い、日本の建築が古来より主に木造であったこと、そして木造住宅の耐用年数が22年と定められているため、古くなると資産価値が落ちることが理由でしょう。壊してしまうこと、無くしてしまうことは簡単です。しかし、歴史は簡単に作れません。価値あるものは適切に維持管理し、残していくのが私達の使命であるとも考えます。それは建築物以外の、無形民俗文化財の継承などにも言えることです。

人間の文化があった記録として、長い歴史の中で文化的価値を持ったものが「文化財」として認められているのならば、今の私たちの暮らしている文化が、この先の未来で文化財になることもあるかもしれません。これからは「文化財調査員」というアテナを立て、文化財調査を通して、昔の歴史を想像し、先の未来へ思いを馳せるのも楽しくなりそうです。



私のパワースポット 宝八幡宮

幸せになろうね



No.306

毎年3月は「自殺対策強化月間」です

自殺対策基本法に基づき毎年9月10日から16日を「自殺予防週間」、毎年3月を「自殺対策強化月間」と定めて、国、地方公共団体、関係団体等が連携して「いのち支える自殺対策」という理念を前面に打ち出した啓発活動を推進しています。

みんなで取り組もう
いのち支えるゲートキーパー

「ゲートキーパー」とは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、言わば「命の

門番」とも位置付けられる人のことです。

自殺対策では、悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤立・孤独」を防ぎ、支援することが重要です。

九重町では、毎年「支え合いリーダー養成講座」を開催することで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、お互いに支え合い・助け合う仕組みづくりを推進しています。

1人でも多くの方に、ゲートキーパーとしての意識を持っていただき、専門性の有無にかかわらず、それぞれの立場でできることから進んで行動を起こしていくことが自殺対策につながります。

新型コロナウイルスの影響もあり、不安を感じている方も多いと思います。どうかひとりで悩まずに、まもろうよこころの相談窓口にご相談してみてください。

健康福祉課

こころの健康相談統一ダイヤル

おこなおう まもろうよ こころ
☎0570-064-556
(ナビダイヤル)